

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 10 日

所属	会計ファイナンス 研究科	職名	教授	氏名	中村元彦
研究課題	電子的監査証拠及び IT 会計帳簿におけるデータ標準化の進展の影響に関する研究				
研究キーワード	データ標準化、IT 会計帳簿、ISO21378、デジタルインボイス	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連する SDGs 項目	8.働きがいも経済成長も	17.パートナーシップで目標を達成しよう	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

会計におけるデジタル化の進展は大きく進んで来ており、特に、税務における電子帳簿保存法による電子取引データの令和 6 年 1 月からの保存義務や令和 5 年 10 月から開始するインボイス制度におけるデジタルインボイスの動きは実務においても注目されている。税務での動きは、実務に強い影響を与えることになるが、この影響が会計監査にも影響を与えることになる。

会計監査（外部監査）において、財務諸表の虚偽記載、特に不正会計への対応は重要であり、不正会計に対する重要な見逃しが繰り返されることは、資本市場における会計監査への信頼が失われ、財務諸表自体の信頼に疑念を持たれることになりかねない。税務でのデジタル化の動きは、会計監査では電子的監査証拠に影響を与えることになる。デジタルインボイスや電子帳簿保存法（電子取引）が会計監査におけるどのような影響を与えるのか、特に、リスクという観点から検討することが重要となる。

このような動向を踏まえ、今年度は電子帳簿保存法（電子取引）の影響を研究するとともに、デジタルインボイスがどのようなもので、どのような影響があるのかを電子的監査証拠の観点から研究を実施した。特に、デジタルインボイスについては、海外で利用されている peppol を利用しており、標準化されていることが特徴となる。標準化することによって、利用するソフトが日本版 peppol である JP PINT に準拠していればどのベンダーであったとしても利用できることとなるとともに、ビッグデータの活用にもつながり、企業においても有用であるとともに、会計監査においても業務の自動化によるリスクの変化やビッグデータの活用による監査手法の変化につながると考え、研究を実施している。また、ビッグデータの活用に関しては、標準化の動きとして ISO21378 があり、TC295 国内審議委員会の委員として参加し、検討に参画している。デジタルインボイスについては、デジタルインボイス推進協議会の特別会員として検討に参画した。

論文に関しては、「ISO21378 などデータ標準化の動向と会計監査への影響」として、千葉商大論叢、第 60 巻第 3 号において、また、「税務におけるデジタル化の進展が電子的監査証拠に与える影響—デジタルインボイス及び電子帳簿保存法（電子取引）を中心に—」として、会計・監査ジャーナル No.813 において発表している。

学会においては、「DX によるデータの標準化の動向と内部統制の信頼性への影響」として、日本ガバナンス研究学会の研究部会報告において、「デジタル・トランスフォーメーションが内部統制に与える影響と外部会計監査人による対応に関する研究」の中の、第 2 章を担当して発表を行っている。このように一定の成果を達成することができたが、大手監査法人を中心にヒアリングの実施、技術的な研究を進めることは新型コロナの影響もあり、今年度は実現することができなかった。このため計画に対する遅れが生じてしまっている。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

【著書・論文（査読なし）】

「ISO21378 などデータ標準化の動向と会計監査への影響」、中村元彦、単著、『千葉商大論叢』、第 60 巻第 3 号、23 頁－47 頁

税務におけるデジタル化の進展が電子的監査証拠に与える影響—デジタルインボイス及び電子帳簿保存法（電子取引）を中心に—、中村元彦、単著、『会計・監査ジャーナル』、No.813、98 頁－105 頁

【学会発表等】

「DX によるデータの標準化の動向と内部統制の信頼性への影響」（第 2 章）日本ガバナンス研究学会第 15 回年次大会、2022 年 11 月、部会長・瀧 博氏（立命館大学）『デジタル・トランスフォーメーションが内部統制に与える影響と 外部会計監査人による対応に関する研究』における第 2 章を担当し、発表

3. 主な経費

学会の全国大会（オンライン開催）の出席やオンラインに関連する機器の経費、書籍などの文献の購入費として使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

特になし。

（本文は 2 ページ以内 にまとめること）